

令和2年度学校関係者評価シート(中間評価)

令和2年 10月 21日

校番	202 127	学校名	広島叡智学園中学校・高等学校	校長氏名	福嶋 一彦	全・定・通	本・分
----	------------	-----	----------------	------	-------	-------	-----

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営目標達成のため、適切な研修計画等が設定されている。 ・学校経営計画に基づき、適切にバランスよく項目が設定されている。 ・国際バカロレア教育を中心に、本校の特色である寮生活などの重点項目について、具体的に目標値や行動計画が設定されている。 ・学校経営目標の視点から適切に設定されている。 ・寮生活に関する目標については、さらに整理・体系化が可能である。 ・目標、指標、計画等が適切に設定されている。 ・「英語力の達成目標」を達成した先に何があるのかをもう少し具体的にしていくと、生徒達のモチベーション喚起の視点からも、DPでの学習準備の視点からも有益ではないかと思う。
計画の進捗状況の評価の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・教職員の自己評価が適切に行われている。 ・ループリックを用いた自己評価や生徒アンケート調査による評価の活用により、概ね適切に評価されている。 ・厳格に評価が行われている。 ・中間評価が、すべて「B」評価であるため、状況の大観が難しい。学校の取組で特に誇れる指導をアピールし、自信をもって「A」をつけることのできる項目をつくりたい。メリハリのある評価を期待する。 ・少し厳しめに感じるが、適切に評価されている。 ・全教職員がそれぞれの持ち場で、生徒達を注意深く見守っている様子がよく分かる。
目標達成に向けた取組の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・中間評価の課題と今後の取組が適切に示されている。また、SD(シニア・ディレクターの有効な活用が行われている。 ・このコロナ禍において実施することができなかった項目も、工夫や代替えの方法により適切に取組が行われている。 ・国際バカロレア機構からの学校に対するフィードバックとして、高評価を得ている。これは、達成目標に対する取組による評価と考える。 ・コロナの状況下であるが、適切な研修が行われている。 ・保護者等への動画やMYPコーディネーターニュースの発信などの取組は評価できる。 ・英語教育の改善に向けて着実に計画的な取組が進められている。 ・コロナの状況下においてできることをしっかり取り組まれている。 ・それぞれの課題に対する取組は適切になされていると感じた。
評価結果の分析の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・国際バカロレア機構から高評価を得ている。 ・各項目について、評価結果の分析がなされており、今後の課題や改善の必要性の有無が適切に判断されている。 ・評価結果の分析が適切に行われている。 ・自己分析や外部評価(国際バカロレア機構の訪問者によるコメントなど)の結果は、許される範囲で公表していくべきである。 ・ハウスマスターやハウスサポーターとも学校の取組や評価を共有し、互恵的なフィードバックと信頼関係の強化を図ってほしい。 ・目標の数値目標に対する現状も把握されており、適切であると感じる。 ・現在達成していること、また、今後達成すべきことが明確に抽出されており行動計画に反映されている。
今後の改善方策の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・中間評価の課題に対して適切な改善方策が示されている。 ・改善が必要な項目において、より具体的な方策が明記されておらず、抽象的なものとなっている項目がある。 ・寮生活の指導の在り方については、常に改善に努めてほしい。 ・どんなルールが必要か、なぜ必要か、どこを改めるべきかを常に生徒に問いかけてほしい。 ・今後の改善方策については、概ね適切であるが、もう少し自主性に任せてもよいのではないかと感じる。
総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、活動の制限がある中、教職員研修を充実し目標の達成に向けた取組が行われている。 ・生徒の表情もとてもよい。 ・コロナ禍で活動が難しい中、生徒会活動や寮での係活動が始動している。今後の学校生活や寮生活がより充実することを期待する。 ・全体として、指導に基づく厳格な評価が行われている点が評価できる。 ・子供と向き合う時間の確保は当然大切だが、貴校の教員の場合、自分と向き合う時間も重要である。カリキュラムデザインや教科指導の向上に向けて専門性を高める機会をさらに確保してほしい。 ・適切に現状把握がなされており、改善方策について検討されている。 ・現在のコロナ禍の下、教職員の大変慎重かつ注意深い取組が毎日様々な場面で行われている。

